

2023年度
一般推薦入試（保育学部）
小論文（30点 90分）

近年、「非認知能力」という用語が保育や幼児教育の分野で注目を浴びている。2018年（平成30年）4月より施行された保育所保育指針の改定では、乳児・3歳未満児の保育の質向上や、幼児教育の場としての位置付けが明確化されるなどの変更が行われた。

社会保険審議会児童部会保育専門委員会による『保育所保育指針の改定に関する議論のとりまとめ』においても、乳児・1歳以上3歳未満児の保育の重要性についての記載があり、特に「非認知能力」についての言及がなされている。

近年、国際的にも、自尊心や自己制御、忍耐力といった社会情動的スキルやいわゆる非認知的能力を乳幼児期に身に付けることが、大人になってからの生活に大きな差を生じさせるといった研究成果などから、乳幼児期、とりわけ3歳未満児の保育の重要性への認識が高まっている。[※]

そのような中で、東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センターによる「非認知能力に関する保育・幼児教育施設の意識や取り組みと園児への影響に関する調査研究」報告書（令和4年3月）によると、園からのヒアリング調査で「非認知能力を育む上で重要だと思うこと」についての回答は大きく以下のようなカテゴリーに分けられることが示された。

- ①子どもが安心できる関係を作る
- ②環境を整える「黒子」になる
- ③子どもの想いに寄り添う
- ④保育者自身の非認知能力を養い、発揮する
- ⑤その理解で合っているか、大事なことは何かを考え、学び続ける
- ⑥身構えず、小さな積み重ねを続けていく

以上の記述をふまえ、非認知能力を育むためにあなただったら、どのような保育を実践するか、あなたの考えを800～1000字で解答用紙に記述しなさい。

※出典：社会保険審議会児童部会保育専門委員会『保育所保育指針の改定に関する議論のとりまとめ』平成28年12月21日